

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/influ-resist.html>

抗インフルエンザ薬耐性株サーベイランス 2019 年 01 月 28 日

国立感染症研究所インフルエンザウイルス研究センター第一室 全国地方衛生研究所

日本は世界最大の抗インフルエンザ薬使用国であり、薬剤耐性株の検出状況を迅速に把握し、自治体および医療機関に情報提供することは公衆衛生上重要である。そこで全国地方衛生研究所と国立感染症研究所では、ノイラミニダーゼ阻害薬のオセルタミビル（商品名タミフル）、ザナミビル（商品名リレンザ）、ペラミビル（商品名ラピアクタ）およびラニナミビル（商品名イナビル）、キャップ依存性エンドヌクレアーゼ阻害薬のバロキサビルマルボキシル（商品名ゾフルーザ）ならびに M2 阻害薬のアマンタジン（商品名シンメトレル）に対する薬剤耐性株サーベイランスを実施している。

下記の表に、遺伝子解析により薬剤耐性マーカーを検出した結果ならびに薬剤感受性試験を行った結果の集計を示す。集計結果は随時更新される。

ノイラミニダーゼ阻害薬については、世界保健機関（WHO）の基準に準じ、薬剤感受性試験において A 型ウイルスでは 100 倍以上、B 型ウイルスでは 50 倍以上の感受性低下が確認された場合に耐性ウイルスと判定する。

キャップ依存性エンドヌクレアーゼ阻害薬ならびに M2 阻害薬については、薬剤耐性マーカーの検出結果を示す。

<https://www.niid.go.jp/niid/images/flu/resistance/20190128/dr18-19j20190128-1.pdf>

表 1. 抗インフルエンザ薬耐性株検出情報 [A(H1N1)pdm09, A(H3N2), B]

2018/2019 シーズン（データ更新日:2019 年 1 月 28 日）

	A(H1N1)pdm09				A(H3N2)				B		
	エンドヌクレアーゼ阻害薬		ノイラミニダーゼ阻害薬		エンドヌクレアーゼ阻害薬		ノイラミニダーゼ阻害薬		エンドヌクレアーゼ阻害薬		ノイラミニダーゼ阻害薬
	バロキサビル	オセルタミビル ペラミビル	ザナミビル ラニナミビル	アマンタジン	バロキサビル	オセルタミビル ペラミビル	ザナミビル ラニナミビル	アマンタジン	バロキサビル	オセルタミビル ペラミビル	ザナミビル ラニナミビル
耐性株数 (%)	0	1 (0.2%)	0	36 (100%)	2 (9.5%)	0	0	21 (100%)	0	0	0
解析株数	51	333	89	36	21	35	35	21	1	6	4
分類・検出報告数	757				426				19		

<https://www.niid.go.jp/niid/images/flu/resistance/20190121/dr18-19j20190121-5.pdf>

表 5. エンドヌクレアーゼ阻害薬耐性変異株検出情報 報告機関別

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000115194.html>

2019 年 2 月 9 日開催 One Health 連携シンポジウム

ーヒトと動物の共通感染症の現状と課題、その対策ー

厚生労働省は、平成 27 年度から、医学・獣医学の横断的な連携（ワンヘルス・アプローチ）を推進し、動物由来感染症の予防・探知・治療等の対策強化を図るために、連携シンポジウムを開催しています。

今回は、ヒトと動物の共通感染症をテーマに、2019 年 2 月 9 日、神奈川県新横浜プリンスホテルでワンヘルスに関する連携シンポジウムを開催します。

シンポジウム概要

- 1 開催日時 平成 31 年 2 月 9 日（土）9:00～12:00（受付時間 8：45～）
- 2 場所 新横浜プリンスホテル 3 階・ノクターン（第 1 会場）（神奈川県横浜市港北区新横浜 3-4）
- 3 開催趣旨

感染症の分野において、動物からヒトへ伝播する感染症（動物由来感染症）は、ヒトにおける感染症のうち半数以上を占めると推定されています。

動物由来感染症対策には、医療、獣医療などの関係者が分野横断的に連携する「ワンヘルス・アプローチ」の取組が重要であるとの認識が世界的に高まっています。

こうした観点から、医療・獣医療の各分野の最新の知見、取組を紹介し、医療・獣医療等の動物由来感染症対策に関わる分野の方々をはじめ、国民の皆様に対して、動物由来感染症の現状と対策の重要性について、広く普及・啓発するとともに、分野間の連携を推進するために、厚生労働省、日本医師会、日本獣医師会が共催で公開シンポジウムを開催します。

4 参加費 無料

5 共催：厚生労働省、日本医師会、日本獣医師会

6 プログラム

別添リーフレットを御参照ください。

7 参加申し込み方法

別添リーフレットを御参照ください。

氏名、所属、電話番号など必要事項を申込用紙に明記の上、E-mail、郵便又はファクシミリにて事前申し込みをお願いします。

8 申し込みに関する問い合わせ先

ワンヘルスシンポジウム事務局 株式会社ツクルス内

TEL：03-6909-3477（受付時間：平日 9:00～17:00）

リーフレット <https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000467610.pdf>

<https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-10601000-Daijinkanboukouseikagakuka-Kouseikagakuka/0000046630.pdf>

結核院内（施設内）感染対策の手引き

平成 26 年 3 月

平成 26 年版

厚生労働省インフルエンザ等新興再興感染症研究事業

「結核の革新的な診断・治療及び対策の強化に関する研究」

研究代表者 加藤誠也

5) 職員の感染防止

- ・ 結核未感染の職員が感染性の飛沫核を吸入しないようにするための個人予防的な手段は N95 型マスク（「N95 型レスピレーター」ともいう）と呼ばれるマスクを使用することである。治療開始後間もない排菌患者の診療・看護にあたる場合はもとより、結核が疑われる患者の気管支鏡検査や採痰指導、喀痰誘発や吸引等の処置を行うときもこのマスクを着用すべきである。

○結核感染恐れあれば N95 レベル以上のマスク着用 厚生労働省が「消毒・滅菌の手引き」改定